

3年 ESD総合学習 事後研究会 H27.12.18

単元「人にやさしい町づくり」のために自分たちにできることをしよう

1 実践の特徴…全体発表の内容を黒板に見やすく掲示したこと。

※今までの多くの実践で苦労していた課題だった。



①高齢者、幼児、障がい者の3つの立場で、自分たちにできることをYチャートにまとめる。



②あるグループのYチャート



③全体発表に向けて、提案したい内容を大きな紙に書き直す。



④提案したら紙を黒板用Yチャートに貼っていく。



⑤どんどん貼っていても何が書いてあるのか分かります。



⑥この黒板用Yチャートを見て、再検討することが出来ました。つまり高め合いが出来ました。

2 実践の成果

(1) 「つかむ」「考える」場面

- ・前時にまとめた紙が黒板に貼ってあったので、児童は思い出しやすいそうだった。
- ・めあての確認、プリントの説明、Yチャートの使い方の説明が丁寧だった。
- ・自分たちで出来ることに関しては、思いつくことをたくさんあげていた。

(2) 「深める」場面

- ・黒板に貼る紙について、3つぐらいに絞ったので全体の話し合いがしやすくなった。
- ・車いすは身体の不自由な人だけでなく、お年寄りも使うという意見が出ていた。
- ・「高齢者って？」という質問が仲間から出てきたときに、一生懸命説明している姿に、班活動のよさを感じた。
- ・班内で自分たちの書いた意見を伝え合い、Yチャートのどこにあたるか、よく相談し合っていた。
- ・同じ意見は付箋を重ねたので、チャートが見やすくなっていた。

(3) 「高め合う」場面

- ・全体発表でも、同じ意見は重ねて発表していったのでチャートが見やすくなった。
- ・全体発表の場では、同じ意見だったら何回も言わないようにしたので、時間短縮につながった。
- ・出来そうな意見がいくつか出てきていた。
- ・今後は、学年全体で紹介し合うという流れだが、ぜひよりよい情報交換会となってほしい。

3 課題

(1) グループでの話し合い活動

- ・チャートを使い慣れていない。1枚の付箋に意見を複数書いていたり、全く違う意見でも重ねてしまったりして、難しそうだった。チャートをどんどん使って、慣れていってほしい。
- ・グループの話し合いで、よい意見まで消えてしまうことがある。グループのチャートがみんなにすぐに示せるようなチャートづくりは出来ないか。
- ・一つのグループで三つの立場を考えさせるのは大変ではないか。

(2) 高め合いの場面

- ・グループの意見を多数決で決めていってよかったか。時間に余裕がなかったので、そうなってしまったが、高め合いの場面だけで1時間とってもよかった。
- ・時間に余裕があれば、Yチャートの立場ごとに検討してもよかった。
- ・グループで選択するアイデアは今回3つまでだったが、2つぐらいに絞ってもよかった。